秋田県聴覚・言語障害教育研究会
OB会会報第2号 平成14年 8月 28日

標題は、秋田県ことばを育てる親の会
会長　辻 久視 先生の「書」です
「たんたん」と読みます。

「たんたん」の意味するところは、《水を深くたたえられた湖へ木漏れ日が鋭く射しこんでいる。重量感溢れる一幅の絵》を創造しております。（遠藤昌夫氏）

詳しくは会報第1号に載っています。

ひとすじの糸のように

OB会 副会長　　梅 田　信 彦

法の保護もないまるで「不熟児」(育たない子)のようなこの教育が、か細い糸を蚕のように休みなく紡ぎ続けて三十有余年が過ぎました。
「同一校勤務七年」という法度の中で、この教育がなお今、確かな命脈を点し続けることが出来ているのは、それは何よりも子どもがいたからです。問題を抱えた子どもたちが、私たちの目の前にいるからです。
「直す」というこの特異な「教育遺産」を根絶やしにしないために、これからもこの一筋の糸を紡ぎ続けて行くために、ＯＢの方々、現役の方々、親の会、各方面の多くの方々の一層のお力添えを念じて止みません。

第３０回秋田県聴覚言語障害教育研究会報告

平成14年7月30日、31日の両日 鹿角市立八幡平小学校並びに湯瀬ホテルを会場に今年度の聴覚言語障害教育研究会が開催されました。会員50余名の参加で大変盛会でした。OB会からも9名の会員(講師を含めて)の出席をいただきました。有り難うございました。当研究会で話された講演や分科会の概要をご報告いたします。

Ⅰ 講 演 「ＬＤ（学習障害）の理解とその対応」
～ＬＤ周辺障害も含めて～

秋田県児童相談所南支所 臨床心理士　秋　山　邦　久

1 ＬＤ等の現状とその理解

(1) 特殊教育から特別支援教育へ

1) 特別支援教育：通常学級に在籍しながらも特別な教育を必要とする児童生徒への教育対応

2) 対象児童生徒：ＬＤ、注意欠陥多動障害（ADD,ADHD）
広汎性発達障害(PDD)

3) 出現率：0、87%

(2) 諸障害の理解

1)LD（学習障害）：言語性LD と非言語性LDがある

① 言語性LD～知的遅れはないが、聞く話す読む書く計算する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す

② 非言語性LD～不器用。視覚運動強調の障害視空間認知の障害

2)多動性障害 ～注意散漫、衝動性、多動が主徴候。課題に集中できない

3)広汎性発達障害～知的障害を伴わない自閉症。対人関係社会性の障害

2 援助の実際

(1)啓蒙 ～二次障害を防ぐ

(2)チームアプローチ ～教師、医師、臨床心理士、保護者との共働作業

(3)正確な診断、判定 ～スクリーニング→精密検査

(4) 援助プログラムの作成と実践～長期目標と短期目標

3 スクリーニングの実際

(1)行動特性

① 落ち着きがなく絶えず身体を動かしている。

② 注意の転導性が高い～よそ見が多い。外部の刺激にすぐ反応。

③協調運動が拙劣～縄跳びが苦手。手先が不器用。自転車に乗れない

④ 対人関係の問題～集団遊びが苦手。場に合わない話をする。
ジョークや冗談が分からない

(2)学力特性

①数学、書字、読解力に劣る ～助詞の誤用。作文が書けない。等

②教科や学力間のアンバランスが大きい。 ③模写や工作が苦手

(3)情緒特性～ ①変化に対応できない。②かんしゃくを起こし易い。等

(4)その他

Ⅱ講 演「鹿角のむかっしこ」

鹿角民話伝説の会「どっとはらえ」会長　高　橋　節　夫

※ 実際に民話を語り聞かせてくれました。実演ですので内容は省略します。 語りは ① ばか婿の話 ② かわうそと狐 ③ 猿の嫁になった娘 等でした。

Ⅲ分科会並びに講話

1 構音障害部会　　遠藤　昌夫

構音障害(軟口蓋破裂の女児)

そのケースは、難解な軟口蓋破裂の女のお子さん(5歳)でした。話題提起された山崎先生は、是が非でも解決への糸口を見付けたいという熱心さで、話題提起が録音、録画を駆使したせいもあり、大事な所だけを大急ぎでまとめても、約60分程かかってしまいました。一事が万事、話題の整理協議も全く不十分で絶対的な時間不足。私に与えられた全時間を費やしたが中途半端になってしまった。

要点をまとめますと

1 赤ちゃんのときから軟口蓋が奇形であったことに保護者が気付いていたが、小児科の医師、オリーブ園、小児療育センターとも、軟口蓋破裂を問題にしなかった。幸いにも、同センターでは、発達にやや遅れがあると診断し、花館小学校の「ことばの教室」を紹介、山崎先生が担当した結果、口くうに問題があると思い、う余曲折の末、やっと、去年の 11月に手術、ただし、再手術が必要。
2 構音は、開鼻声が強くて舌の位置、口形、息の出しかた「î」「ɯ」が鼻咽くう構音等、口蓋破裂の特徴が強烈である。
3 指導法だが、一つ覚えで大事だと言われるとそのことだけ、つまり、ブローニングと構音が未熟なまま被刺激構音を試みることと正誤弁別。自分の若き日と同じ。
4 医療との提携の重要さ、確かな子供の姿を知る大切さ「諸検査」、指導プログラムの大切さ、指導方法や教具の工夫等。
5 子どもが可哀相では済まされない。

『スケッチは
遠藤昌夫先生の作』

2　言語発達遅滞部会　　山田　芳男

（1）言語発達遅滞児にはいろいろなすがたがある。
　～自閉的傾向の子、知的遅れの子、難聴の子、等～
（2）子供の言葉や動きをよく見、よく聞いてその心と言葉の意味をよく捉えてやる。
　例　「水の中を泳げるものはなあに？」～「それは6時半だ。」
　◇ 魚と答えないで、なぜ6時半と答えたのか、その意味をよく聞いてやる。
（3）親の言う言葉をよく聴いてやる。～ 傾聴－受容－共感～
　◇ スマートに格好よく指導助言を行うなどと考えないほうがよい。
（4）ＷＩＳＣ－Ｒ等の心理検査を行った場合、ただＩＱを知るためだけでなく検査後の指導プログラムをたてなければ検査をした意味がない。
（5）言語治療は時間のかかる仕事である。その長い時間、耐えて、執念をもって、子供に付き合う気持ちがなければこの仕事は務まらない。
（6）音声言語で応答のできない子がいる。コミュニケーションの手段として書き言葉を利用する方法がある。或いは絵文字、身振り言語の活用などを考えてみる方法もある。
　例 手紙を書いて子供に出す→親と子が一緒に大きい声を出して読む
　　何回も繰り返しているうちに、子供とのラポートがついていく。
（7）母親の協力は是非必要。家族全員で子供の援助に当たる。
（8）指導に際しては、音声言語だけに目を向けるのではなく、視覚－運動回路聴覚－運動回路なども活用し、（身体の働き全体に留意し）言葉を総合的にとらえて指導にのぞむことが大切である。

3　難聴部会　　石井　辰徳

《第1日目》分科会別研究協議

話題提供として、秋田市立日新小学校兜森真粧美先生から、「通常学級との連携－障害理解学習－」というテーマで、校内研究会の時に行った研究授業についての報告があった。

「わたしができること」という題材名で、交流学級の子供達に聞こえにくさの疑似体験をさせることを通して、聞こえないことの不便さや不快感に気づかせ、難聴児に対して自分たちに何かできることはないかと考えさせる事を目的とした授業である。その説明から授業は綿密な指導計画のもと、進行上よく配慮された授業であったことが伺えた。また、子供の発表内容や感想文から、双方の学級の子供達に心の変容が見られ、大きな成果を挙げた授業であると評価できた。
　他校では障害児の理解について校長や教師が若干話す程度で、本格的な障害理解学習はまだ行われていないようであるが、他県では計画的な学習指導を行い、研究発表を行ったりしている状況のようである。本県でも障害の別を問わず、各校でどんどん進めていく必要があるように思う。

《第2日目》分科会別講話

石井が、説明文の読解指導に関して、語彙指導の面から配慮すべき事柄を、実際の教材をもとにして説明する。
なお最後に特殊教育の理念及び精神について話し、理解と認識を深めてもらうと共に、特殊教育の教師としての使命感と意欲の高揚を図る。

4 学校経営部会　　梅田　信彦

話すことが大切

「一期一会」というコトバがある。
茶道の本質を語るコトバと言われるが、これはまたコミュニケーションの真髄をも語っている。同様に子ども同士交わし合うコトバがある。「またあした」である。今日一日の友への感謝と、明日の命への祈りをこめて交わされるこのコトバの中にこそ、コミュニケーションの全てがある。
コミュニケーションは単なる表層のコトバのやりとりではない。人格と人格、人間と人間との命懸けの交渉の場である。だから、その中で話しコトバは成熟しやがて「文字」を得て「書きコトバ」へと転身する。
私達が記憶し言語を操作して思考するのは「書きコトバ」に拠っている。「話しコトバ」ではないのである。
この頃、教育現場で問題となっている学習不振、不登校、非行等もみなつきつめればコミュニケーションに起因する話しコトバの成熟の低さにあると考えられる。
「人格淘冶」「人間形成」を目指す学校が今、そのコミュニテイの資質を失おうとしている。

◎ 新入学の一年間かけて話しコトバをマスターしよう。
◎ 文字への入門は慎重に。せめて一学期間は「書」かずに「話」そう。
◎ 入学時の発達の差を大切に。ひとりひとりの「条件」に応じた指導を心がけよう。

全国 親の会創立30周年 記念歌「夢の葉」
～記念誌 全国言語障害児をもつ親の会 30年のあゆみから～

夢の葉

1 小さな愛の　ひとつひとつが
緑にゆれる　夢の葉
そよ風に吹かれていく
静かに光る　夢の葉
きっとあなたの心まで
そっと届くはず
※ 夢いっぱいの　愛いっぱいの
大きな大きな　樹に育て
夢いっぱいの　愛いっぱいの
すてきなすてきな 森になれ

2 あなたの心　いっぱいにする
緑にゆれる　夢の葉
せせらぎを　流れていく
森と祈りは　愛の葉
きっと　世界の彼方まで
いつか　届くはず
※きっと　変わらずいつまでも
ずっと　届くはず
夢いっぱいの　愛いっぱいの
私とあなたの愛になる
夢いっぱいの 愛いっぱいの
やさしいやさしい人になれ
やさしいやさしい夢の葉よ

ＯＢ会員メモリアルホール

怪獣ごっこ

元鷹巣小学校「ことばの教室」　成田　トヨ

教室担任になって始めての頃、4歳位いの可愛い男の子が私の担当になった。初めて会ったその日、あまりの可愛いさに「ぼくちゃんのお名前は？」「しまった。」と思う間もなくうつむき加減の彼の目ににらまれた。口蓋裂だった。梅田先生のご助言で指導は「ウーウー、ガーガー」と怪獣ごっこから始まった。名医の手術は済んではいたが相も変わらずで悩んだ。

その頃、ある研究会でＨ医師を紹介され、2年半待ってやっと再手術を受けた。以来私は指導記録のテープを持ってＨ市のＴ教師の元に約１年間通った。ことばはどんどん改善され小学5年で終了。長い間の彼の努力とご家庭の協力には頭が下がった。6年の夏休みの発表は外来語集め。中学では校内弁論大会に出場とか。高校は進学校に進み東北福祉大学を卒業した。現在Ａ県の県庁勤務でばりばり頑張っている。今も彼と彼の両親とＨ医師からの年賀状の交換は続いている。

「怪獣ごっこは」、今も更になつかしい。

「進歩と反抗」

鷹巣町　平田　謙一

50歳を迎えたとき、私は突如、自分はもう進歩が止まったのではないか、という恐怖におそわれた。進歩が止まれば退歩あるのみ、闇の中に突っ込んでいくことに甘んじなければならない。

何か新しいことを始めなくては・・・。こうして私は陶芸を始めた。3年間続けて窯元を訪ね歩いた。年をとってからの陶芸はダメ、というのは半分は本当、半分は嘘である。無限の上昇はないが確実に進歩はする。

かくて私はまんまと恐怖を追い払った。自己満足かも知れぬが、それでよい。「反抗しながら滅びよう」とフランスの作家アルベールカミュは言った。いま私は「進歩しながら滅びよう」と心に思う。進歩とは闇への反抗なのだ。　この後、さてどの面で進歩を志そうか。癌の知識にだけはやたらくわしくなる、といったふうにならなければよいのだが。

子どもさんの発達を願いつつ十三年間

中仙町　仲野谷　清

四か町村の乳幼児検診に参加していて人級児は30名以上にもなっていました。退職するにあたって新しい先生にすべてを託すのはしのびがた

く、私設通園施設「おリブる園」を設立して四月から17名を指導しました。乳幼児検診にも引き続き参加しました。三年目には聞き込みで乳幼児は46名にもなり苦痛になって、教育相談はして、指導は待ってもらいました。あとやめようと何回も思いつつ今年度で十三年になりました。指導計画をたて、指導後はそのノートに反省をメモし、次回の計画をたてたり教材を作ったりで休む時間がないくらいでした。指導ノートがミカン箱に六個ほどになりました。

今年度で乳幼児検診も、「おリブる園」での指導(現在 25名在園)も、終わりにすることにしました。七月末、東京へ最後の勉強にいって障害児の指導を終わりにします。

声に出して・・・日本語

河辺町　　高　橋　恒　治

「声に出して読みたい日本語」〈斎藤孝〉が評判になって久しい。ベストセラーである。その裏には声を出すことが少なくなった実態がある。

確かに大きな声を出す必要がなくなっている。要らないと思うのにちょっとした場面でマイクロホンを使うことはよくある。マイクも使いようでデメリットになるのだ。

車社会になって歩かなくなったこと、パソコンを使い書かないことに似ている。今こそ歩くことを、ペンを持って書くこと、そして声を出すことを大切にしたいものだ。機械や電気に頼らずに自分の力で。

この本「声に出し・・・」は、タイトルに魅かれて、ずっと前に買ったが読んでいない。年齢や買えば安心で積んでおく悪いクセも要因だ。目より耳の方が楽になった。ラジオが好きになり、放送を聴く機会が多くなった。

「聴・言」への関心は健在である。

このごろのわたし

能代市　　塚　本　寿　之

退職四年目になるけれども、少しずつ身辺を整理しようと心がけている。ダンボール箱十数個分もの教育関係資料は再利用の機会もなくなり廃棄することにし、パラパラとめくり見しては、いろいろなことに精を出して仕事をしていたんだなと懐かしく思って廃棄には未練があったが、思いきることにした。

次に写真の整理を始めた。フエルアルバムも台紙が色づいて見苦しいので五冊一箱になっているポケットアルバムに張り替えた。

学校での教え子関係、同職者関係、種々の加入団体関係に分け、一冊毎に背文字で分かり易くしたが、十五箱分になった。まだ家族分には手をつけないでいる。楽しみながら少しずつ進めていこうと思っている。

書架の本も、数百冊は某所の図書室へ寄贈し、古いのは資源再利用回収時に運んだ。
今、時間をかけて整理しているのは、手紙類である。これは捨てられないと思っている。

二十歳(はたち)になった子供達

鷹巣町　寺田　正子

先日(7月28日)現在の職場比内養護学校の卒業性の「同窓会・成人を祝う会」がありました。12名の卒業生が成人を迎え、このうち4名が就学前にことばの教室に通級しておりました。
男性はビシッとスーツを着こなし女性はきれいにお化粧をして、すてきな娘さんになっていました。みんなそれぞれの場所で活躍しているようでしたあのときのチビッ子たちが明るく成長し驚きと喜びで胸が一杯になりました。
また我が子の成長した姿に目を細めて見つめるお母さんの表情からは、20年の歳月の重みを感じさせられました。あの頃はどうしたらいいか分からなかった。これまで様々なハードルを乗り越え、今の生活があるんだね。家族や友達周りの大人達が支えてくれているんだね。・・・話しは尽きない。嬉しさに溢れた顔から我が子を案じ一生懸命だったお母さんを思い出しました。

「近況　いろいろ・・・・」

大館市　角屋　孝子

仕事を離れて15年にもなりますのに「ことばの教室」という響きは、今でも私の心の奥をくすぐります
何も知らずにとびこんだ世界でしたが、先輩の先生方には何かと育てていただきました。研究会。全国大会への参加。そして旅の数々・・・。もう30年も昔のことですのに、昨日の事のように鮮明に蘇ってきます。
先日なすの苗を買いに行った店先で難聴の「S」君に声をかけられました。彼はもう35歳。可愛い娘さんの手をひいていました。一週間ほど前には、「先生おしゃべりに行っていいですか・・・」と自閉症の「K」君のお母さんから・・・のんびりした電話。私の中では「ことばの教室」でのお付き合いがまだまだ続いています。一生の宝物のようです。
私自身は、少しばかり身に付けた「茶道」を生きる支えにしながら、社中の方々と、楽しみながら、ただ今、元気に過ごしています。

誤りのパターン

大曲市　三浦　松夫

子どもの発音の誤りを指導しながら、その誤り方のきまりを教えてもらったことがある。オカアサンをオタアサンという誤りは例として上げられているが、それをオパアサンと誤る子に合ったことがあった。
「パタカ表」とか言われるが、これは破裂音の部であって、唇か舌先か奥舌かによって決まるのだが、奥舌の破裂を唇に代用していたのである。
このケースは、うがいの指導から正しい構音に導くことができたが、破裂という共通部分での誤りである。オハアサンとかオナアサンと誤るケースは合ったことがなかった。
このような認識はないだろう年代であっても、破裂という中でしか誤らないということに気づかされ、教えられ、驚嘆させられたことだった。
オガアサンは方言風だがオダアサンという子にもまだ遭遇していない。

雑　感

元米内沢小学校「ことばの教室」担任
前鷹巣中学校「難聴学級」担任
現鷹巣阿仁福祉事務所保育指導員
松橋　英雄

過去「ことばの教室」10年「難聴学級」2年 合計12年間 保護者と共に「この子のために」と夢中になって取り組んだことが思い出されます
当時通級した子供達は、中学校を卒業しそれぞれの進路先で頑張っていいますが、本人はもとより保護者からも手紙や電話で近況を知らせてくれたり、行きあう度に「苦しかったこと」「楽しかったこと」などを述懐し、思い出話に花が咲き成長を喜びあうことができます。担当してよかったなあという気持ちで一杯になれるひとときです。
ＯＢ会の仲間入りさせて頂き数年になるのに諸案内は頂くがなかなか出席できずにいましたが、平成12年度の総会にはじめて出席する機会を得、この教育に対するＯＢ会の熱意、そして実績を肌で実感することができました。
ＯＢ会の活動はこの教育の基盤になっているのではないかとも感じました。

☆ **事務局**からのご連絡

① 県 親の会会長 辻　久 視 先生から言語障害児教育白書を頂きました。皆様のお手元に御届け致します。

② 7月30日 研究会会場八幡平小学校校長室において伊藤薫ＯＢ会会長から鈴木正孝県聴覚、言語障害教育研究会長に、研修費 30、000円"聴言研支援費"として手渡されました。

③ 8月22日～24日の3日間、能代山本スポーツリゾートセンターアリナスにおいて、秋田県ことばを育てる親の会親子宿泊研修会が開催されました。親子、スタッフ大勢の方の参加を得て楽しい有意義な会が 催されました。会の詳しい内容は会報第3号にて報告いたします。

④ **会費納入**についての**お願い**

もし、会費未納の方がいらっしゃいましたら、ご迷惑をおかけして誠に恐縮でございますが何卒納入下さいますよう御願い致します。

なお、平成14年度の会費は2、000円です。振り込み用紙にて

9月 20日 頃までに、納入くださいますようお願い致します

口座番号等は次のようになっています。

事務局

〒 016－0817　　☎ 0185－52－0468

住所 能代市上町4番37号 能代市立浄城第二小学校通級指導教室

言語担当教諭 高橋かすみ

振替 口座番号 0 2 2 6 0－2－7 6 4 4 5

口座名　秋田県聴覚、言語障害教育研究会ＯＢ会

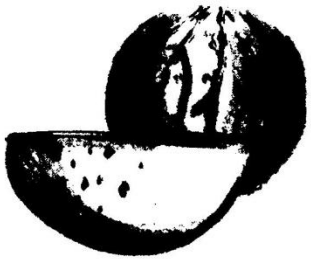
【編集後記】

・OB会会員の皆様お忙しいところご寄稿くださいまして本当に有り難うございました。中にはわざわざ私信として激励のお手紙や、往時の懐かしい思い出話などを書いたお手紙も頂きました。厚くお礼申し上げます。

皆様の当時のお姿を脳裏に浮かべながら、頂いた原稿を楽しみながらワープロに打ち込んでいきました。この会報ができるまで大変充実した毎日でした。第3号ではまた10人前後の方と紙上でお目にかかることになろうかと存じます。何卒宜しくご協力の程お願い申し上げます。

尚、ご寄稿は名簿順に10人前後の先生方にお願いし原稿到着順に紙面に載せさせて頂きました。何卒ご了承の程宜しくお願い致します。

《文責　山 田》



秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会
会報 第3号　平成 14年 10月　5日

標題は、秋田県ことばを育てる親の会
会長　辻 久視　先生の「書」です。
「たんたん」と読みます。
命名者は 元OB会事務局長 遠藤昌夫先生です。

「たんたん」の意味するところは
《水を深くたたえられた湖へ木漏れ日が鋭く射し込んでいる。重量感溢れる一幅の絵》を創造しております。（遠藤昌夫先生）

詳しくは会報第1号に載っています。

「メモリアルを読んで」

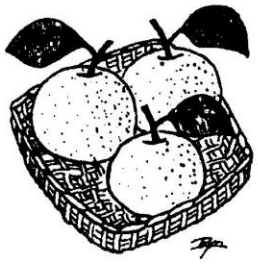
ＯＢ会会長　　伊　藤　薫

OB会報第2号は、これまでに見られない充実した編集内容だけに、一気に読ませてもらいましたが、特に心を引かれましたのはメモリアルの記事であります

例えば、現職を去ってもなおこの道に長年取り組まれたＮ氏、今は立派な社会人として生活している教え子の姿に満足しているＴ氏、子供から多くを学んだというＢ氏、物の整理をしようにも想い出が多く廃棄に断腸の思いをしているＫ氏、今なお年賀状の交換を続けているというＡ氏、などなど。

わずか十数行にすぎないスペース（行間）からは、往年この道一筋に取り組んで来られた先輩達が、いかに彼らと向かい合いどう共生して来られたかが、強いインパクトとなって私の心情をゆさぶりました。

幸いにも、来月（11月22日）には30周年記念事業（式典、祝賀会）もありますことから、この機会に是非とも参加しこうした回顧談等語り合い現職の先生達との交流を深めてほしいと思っております。



室を分けてください

ＯＢ会 副会長　長 門　章

現役を離れて久しい今、未だに思い浮かべるのは、孤立した学級、空き教室に作られた学級というイメージと、在籍児童の確保に奔走したということです。教室の存続さえ危ぶまれたあの頃は指導どころでない緊迫した毎日でした。どうしたら、学級を確保できるかで頭が一杯でした。このことは会員の皆様も大なり小なり経験されていると思います。

当時の熱気は今はないが、その精神は今も持ち続けているつもりです。

自分達の経験をこの教育に生かして下さい。今だに燃え続けている灯を絶やさないよう、ＯＢのエネルギーを注いで下さい。

親子二泊三日の合宿キャンプ開催

～　秋田県ことばを育てる親の会主催　～

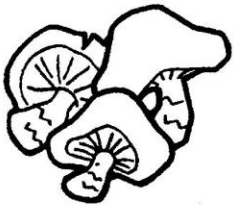
（報告）

親の会主催の夏季キャンプは8月22日から三日間能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」において開かれ、親子、スタッフ、60余名が参加し交流を深めました。事務局能代市立亭城第二小学校の佐藤昌子先生、高橋かすみ先生を中心に、亭城二小の職員、能代山本、花輪、大館、鷹巣、秋田、横手、の子供、スタッフが多く集まり楽しい宿泊キャンプでした。

普段、通級児は在籍校が異なるため顔を合わせることは殆どないのが実状であります。子供達はこのキャンプを通じて心の交流を深めていました。また23日には、全国ことばを育てる"親の会事務局長 野木孝氏"を講師に招いて講演会を開催いたしました。講演要項は別紙の通りです。

当日の主なる行事

22日 開会式を終えた後プールで水泳、水遊びをする。
夕食後夜店を開き買い物ごっこをする。
出店は ①ヨーヨー売り ②風船売り ③八百屋さん ④ガチャポン
⑤スーパーボール　などです。
子供達は思い思いの買い物をし満足げでありました。特に買った風船を天井に向かって飛ばし大喜びでした。
（タイガースの風船飛ばしのまね）



23日 朝ラジオ体操
午前　講演会【 障害のある子の家庭における養育の在り方 】
講師 全国言語障害児をもつ親の会事務局長 野 木　孝
午後　小規模作業所「ワークしののめ」見学
火力発電所 見学　エナジアムパーク探検
夕方 バーベキューを食べた後花火大会

24日 朝ラジオ体操
午前 保護者対象　懇話会　相談会　担当 山田芳男 梅田信彦
児童対象　レクリエーション　和太鼓演奏　ダンス
閉会式　感想発表

子供の声

《A君》ぼくはこの3日間過ごした中で一番印象に残ったことは、エナジアムパークを探検したことです。ぼくは行ったことがなかったので探検できてよかったです。他にも、花火など楽しい思いでが一杯できてよかったです。3日間楽しかったです。

《T君》この学習で私が面白かったのは22日のお店やさんです。
お母さんと妹のなおみちゃんと3人で最初に好きな袋をもらってから、ヨーヨー、ガチャポン、スーパーボール、風船、折り紙と5つのお店を回って歩きました。お祭りの夜店みたいににぎやかで楽しかったです。

《H君》　　アリナスの３日間
アリナスの合宿は、超スーパーウルトラ楽しかったです。ぼくはお母さんと泊まりました。お部屋の二段ベッドは、とても気持ちよかったです。1日目夜店をやりました。ガチャポンを買って面白かったです。2日目は、夜に花火をやりました。とっても楽しかったです。3日目はレクで太鼓をたたきました。面白かったです。また合宿にいきたいです。

《K君》 合宿1日目の夜店がとても楽しかったです。お父さんお母さん弟と4人で参加してよかったです。

《花火》

「イラストは
梅田信彦先生 作」

スタッフの声

大館市立桂城小学校　　田代　和彦

スタッフの一員として参加させていただきました。初めてお会いしたお父さん、お母さん方、子供さん達、浄城第二小勤務時代にお付き合いいただいた子供さん達やお父さん、母さん方との楽しい合宿研修会でした。

次々と予定が組まれそれを消化するのにエネルギーを要する研修が多い中、今回の研修はゆったり組まれた日程で世間話的に、いろいろ話ができたと思っています。普段、指導や勤務の忙しさで忘れかけていた何かをゆり動かされたような気がしています。その思いを胸に、2学期も頑張ろうと思っています。ご参加の皆様お疲れ様でした。

横手市立朝倉小学校　　小林　牧子

能代山本スポーツセンターを会場に行われた2泊3日の集団指導に、5歳になる二女を連れて参加させていただきました。何かスタッフとしてお手伝い出来ることはないかなと思い、でかけていったのですが結局事務局の佐藤昌子先生を中心とした県北ブロックの先生方、浄城第二小学校の先生方にすっかりお世話になってしまいました。

県内の通級の友達やその保護者の方々と、活動を共にする中で学校のことや家庭の子と、子育てのこと等を親しく語り合うことができました。また、全国親の会の事務局長　野木先生からは「通級指導教室の現状と今後の在り方」「最近の子供について」等のご講演を戴き子供のために親と指導者が互いに力を合わせて働くことの大切さを改めて考えさせられました。

子育てにおいては「絵本の読み聞かせが有効である」とよく耳にしますが、『絵本の話そのものの面白さよりも読み聞かせしているお母さんは機嫌がよい状態であることを子供自身がよく知っているからこそ、「お話をせがむ」のである』という内容がありました。母親として思い起こしてみると正にその通りです。今回の集団指導では、日常の家事・仕事から完全に離れて、我が子と真正面から向かい合いゆったりと過ごすことができました。娘にとっても私にとってもとても貴重な楽しい思い出ができました。

辻先生、山田先生、梅田先生、県北ブロックの先生方、通級指導教室をサ

ポートしてくれる渟城第二小学校の先生方、友達のために駆け付けて参加してくれた富根小学校の6年生の皆さん等等、たくさんの暖かい仲間に支えられた素晴らしい会に参加出来たことをとても嬉しく思っています。
本当にお世話になりました。

鹿角市立花輪小学校　　井　上　朝　子

親子合宿2日前の練習のおかげで迷うことなくアリナスに到着できました。実はアリナスという名称さえ知らない私。勿論、オリンピック出場選手の合宿が行われた建物であることも・・・。
さて、今回の親子合宿にはゆとりある日程の中に水泳や花火、夜店、火力発電見学、エナジアムパーク探検、等子供達が喜んで参加できることが盛り込まれていました。家庭とは違う環境と雰囲気の中で、親子のつながりだけではなく、親と親、子供と子供のつながりも深まったように感じました。その中に係りとして参加し一緒に研修させていただきました。
子供達の笑顔と歓声をおみやげにできた2泊3日でした。

能代市立渟城第二小学校　　若　狭　洋　美

私は二日目の夜、バーベキューより参加させていただきました。アリナスの中で、子供達の顔が輝いていたのが印象的でした。障害の内容や程度について全く知らない私ですが、そんなことは関係なく同じものを食べ集い、躍り、汗を流し、最高の2泊3日だったように思います。
聴言研について、辻会長さんより設立された頃のお話をうかがうことができました。今年、特殊学級を担任させてもらって、私自身、毎日毎日子供に教えられることの連続です。あのアリアスで見せた笑顔をクラスでも出してもらえるよう研修を重ねていきたいと思います。
よい機会を与えていただきました。

山本郡二ツ井町立二ツ井中学校　　松　岡　博　樹

今回初めて参加させていただきました。担任している本校の生徒、保護者も参加して下さり、生徒の家庭での生活の一端をうかがい知ることができ、有意義な合宿になりました。

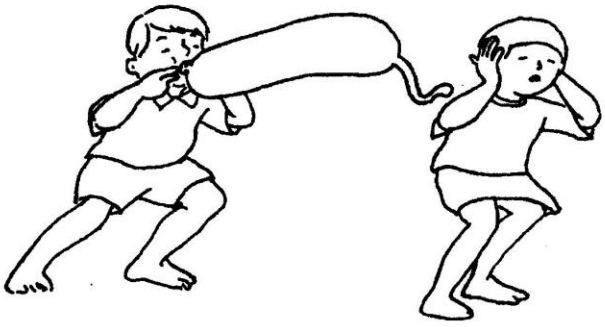
ただ、残念なことは中学生の参加が本校生徒の1名であったので、本校生徒にとっては交流できる対象が小学生以下であったので少々退屈させてしまった感があります。次回からは参加を呼び掛ける範囲を拡大し、中学生以上の参加も広く呼び掛け、参加層の拡大を図りたいと思います。

現在中学2年の難聴生徒を担任すると共に中学2年の知的障害の生徒の授業も担当しているが、知的障害の生徒の指導に生かせる経験がたくさんでき、有意義な会でした。本校の知的障害の生徒は、構音障害を併せ持っているので参加を呼び掛ければ良かったと後悔しています。

能代市社会福祉課家庭相談員　　梅　田　信　彦

いちばん盛り上がったのは最終夜のバーベキューでした。メニューも豊富で親も子もワイワイと賑々しく興奮しました。やはり集団で楽しむ機会が少ないのだと感じます。この三日間、子供達が「家族」を中核にして集団で過ごして楽しんだというのは貴重な体験だったと思います。

ただ、費用の問題で補助を受けるための条件の制約が大きすぎること、計画し実施する人の苦労が大変なこと等「舞台裏」の難儀がきになりました。



「イラストは
梅田信彦先生作」

《　風船　》

能代市　　山田　芳男

2泊3日の合宿研修会は、盛会の内に無事終了いたしました。子供達の喜ぶ元気な姿と、特に二ツ井町立富根小学校6年生の皆さん全員の賛助参加には胸の熱くなる思いがいたしました。「ことばの教室」の指導はもともと、個別指導が原則でありますから、普段、顔を合わすことのない方々、多数の人数を集めて集団で活動するということは大変なことなのであります。

一方「ことばの教室」の運営はひとり「教室」だけでできるものでもありません。通常学級の先生方の協力、家族の方々の協力、そして地域社会の方々の理解等が必要となります。みんなの力、支えが、ぜひとも必要なのです。「ことばの教室」の仕事は、ただ「ことばの治療」だけにとどまることなく広く社会全体に啓蒙の手を伸ばさなくてはなりません。

そんな意味からしても、今回の合宿研修会は実に重く意義の深いものでした。この企画に賛同して渟城第二小学校の職員、遠く県北ブロック、中央ブロック、県南ブロックの先生方がスタッフとして駆け付けてくださいました。特に夕べの集いを含めて2日間も、渟城第二小学校の校長先生、教頭先生がご参加下さり会を盛り上げて下さいました。みんなが参加してくれました。有り難いことでした。

家族の集いではお母さん同士仲良くなり、悩み、希望等、子供について熱く語られました。

全国言語障害児を持つ親の会事務局長 野木先生からは、ご講演、寄稿文をいただき、今後の言語障害児教育の進むべき道に大きな示唆を与えてくださいました。

この3日間、本当に暖かい雰囲気に包まれた実り多い、実に素晴らしい会でした。参加した誰もがそう思ったに違いありません。

この計画を立案運営、子供の指導に当たった事務局の佐藤昌子先生、高橋かすみ先生のご労苦に対し心からの敬意を表したいと思います。

これを期に、この教育の更なる前進を期待しております。

《寄稿》　全国親の会の課題とキャンプの効果

全国言語障害児をもつ親の会　事務局長　野　木　　孝

「私の地域にもことばの教室を！」「専門の先生の養成と配置を！」

との目標を掲げ39年前に設立された全国言語障害児童をもつ親の会は、多くの県で教室数を充足させ、念願の通級制を実現させるなどの成果を挙げ、現在は、専門の先生の配置、先生方の働き易い環境作りなどに努力しているところです。

具体的には、言語障害教育免許状を新設し免許状所有者のみを担当として配置すると同時に専門家にふさわしい処遇をすること。更に、先生の配置を「加配」ではなく、学級担任と同様「標準配置」とすることや、児童10人に先生1人を標準とする現在の配置法を、児童10人を上限に先生1人を配置するような法改正を目指しています。

このことが実現して初めて、子供達の十分な教育を受けさせられる体制が、確立するとの考えによるものです。
当然、親だけが闇雲に運動を進めるのではなく、先生方のご意見を聞き、ご指導をいただきながら運動を展開しなければなりませんから、先生方との提携を強化すること、親が完全に我が子の障害を受容して正しい養育の在り方を確立し、望ましい学校教育制度の在り方を理解している必要があり、そのための学習をすることが不可欠となります。

その意味で、8月22日から24日に開催された夏期キャンプは子供たちが3日間の集団活動を通して発達促進、障害の改善や克服を図られたばかりでなく、親にとっても有意義な企画でした。

今までの実施県からは、日程に組み込まれた親の研修講座も有意義には違いないが、3日間寝食を共にし、休憩時間や子供を寝かし付けた後の、親同士の自由な交流や情報交換、更に夜を徹して語り合った、お互いの経験談から気付かされたことが、より有意義だったとの報告が多く、今回の秋田県のキャンプでも同様の効果があったものと、信じているところです。

《親子合宿研修会の企画 運営 指導に当たった主催者コメント》

集団指導を実施して

能代市立渟城第二小学校　佐　藤　昌　子

今回の集団指導は、当初一泊二日の予定でしたので、気候的にも秋頃がいいのではないかと考えていました。ところが、二泊三日ということになり、夏休み中でなければ実施できない状況になってしまいました。

さあー、いつにするか、行事予定とにらめっこです。休み中といえども、毎日のように何かがあって、差し障りがない日はそう簡単には見つかりません。やっと探しあてたのが8月22日～24日、何と休みの最後です。でもそれ以外は見付からないので仕方ありません。問題は『何人参加してくれるか』です。案内が遅くなったせいもあり、申し訳なかったのですが、案の定心配が的中し、参加者がなかなか増えません。

電話作戦で、あちこちかけました。が、「二泊はちょっと・・・」とか、「仕事だから休まれない・・・」「その日は残念だけど行かれない・・・」などと、人数が集まりません。どうしようもなく、別の作戦で「子供だけでもいいよ！」「一泊だけでも・・・」等、その他いろいろ・・・。その結果県北ブロックの先生方や横手からは小林先生、しかもそれぞれ子供さん同伴、渟城二小の先生方、そして富根小(前任校)の六年生全員が来てくれたおかげで、まずは集合写真クリアー。後は、何とかなるさの精神で乗り切ったように思います。

講演は、全国親の会事務局長 野木孝先生に、講話は、山田芳男先生と梅田信彦先生にお願いしました。辻会長さんには、全日程参加していただき保護者の方々も大変喜んで下さいました。準備の不手際等、いろいろありましたが、皆さんに助けていただきながら無事盛会のうちにに終わることができました。本当に心より感謝申し上げます。

子供達の「楽しかったね！」「来年も来たいね。」という会話や、明るい笑顔は何よりの回復薬です。　ありがとうございました。

能代市立渟城第二小学校　高　橋　かすみ

2泊3日の合宿ということでどうなるか心配なところもありましたが、親の会の役員の皆様や、スタッフの先生方、参加して下さった家族の方々や先生方のおかげで「何とか終えた」ではなく、何かが残った気がしております。

ゆとりある時間割りの中、子供達が活動にひたりきり満足気であったこと。お母さん、お父さんと子供との○組○脚がうまくできているかのよう

なふれ合いを感じることができたことなどいろいろうかんできます。
友情参加をしてくれた富根小学校6年生の皆さんとの記念写真を見るたび感動が新たになるような気がしております。
貴重な研修会の機会をありがとうございました。

ＯＢ会員メモリアルホール

「近況を一言・何とかやっております」

仙北郡六郷町　　岩田　隆則

初めて校種の異なる学校に赴任して、戸惑いながら5ケ月が過ぎました。
改めて、特殊教育の広さを感じております。盲学校はご承知のように明治45年秋田市西根小屋町に盲唖学院として発足し今年で90年を迎えます。昭和12年にはヘレンケラー女史も来校しており、本県唯一の視覚障害教育の施設として在校生のピーク時は120名を数えましたが、近年は、小中学部への就学児が激減し、高等部専攻科の入学者が多い状態にあります。
今年度は、90周年記念事業、就学啓発会議、学校展主管校として忙しい年度です。
加えて、教頭には、県特殊教育学校の教頭会当番校としての事業もあり、一段と忙しく、充実した日を過ごさせてもらっております。2度目の官舎住まいも4月当初には自信がありましたが、単身赴任も年には勝てないことを先日のドックの検査結果を見てつくづく感じているこの頃です。

夢中で過ごした時期

秋田市　本郷　光

私は昭和56年から6年間横手市でことばときこえの教室を担当していた。その前の6年間は聾学校に勤務していた。この間私は、息子と娘の子育てをしながら教職生活を送った。
息子が生まれた時、どのように言葉が増えていくのか知りたくて、1歳頃からカレンダーに息子の話す言葉を記録してみた。また、娘が生まれた時は、なん語からどのようにして言葉として発音できるようになるのか知りたくて、8カ月頃から毎月30分ほどテープに娘の声を録音してみた。何かしら自分の仕事のヒントがつかみたくて必死だったのである。
今でもこのテープは大事にとってある。子供たちは小学生の頃、時々こ

のテープを聞いて喜んでいた。言葉に関する仕事に携わっていたおかげと思っている。
現在娘は社会人、言語聴覚士として働いている。親の生きていく姿を子供は見ているものだと感じている。

誌面をお借りして「諸先輩に感謝！」

秋田市
栗田養護学校　高 橋　真 理 子

「懐かしいなあ。」前回の会報に寄稿なさっている方々のお名前を拝見し、おひとりおひとりのお顔を思い浮かべ涙が出てきました。
23年前、私は採用と同時に土崎小学校の「きこえの教室」の開級に携わることになりました。講師経験もなく、若さを通り越して「バカさ」ばかりで、今思い出しても赤面するような失敗の連続でした。でも、年に数回お会いする先生方は、そんな私をいつも笑顔で励まして下さいました。
ただの一度も否定の言葉を発せられたことはなく、私のささやかな頑張りを見付けてたくさん褒めていただきました。仙台の大学から友達もいない秋田市に突然来て心細い思いをしていた私にとって、その一言一言が暖かく心にしみて本当にありがたかったです。
この会の先輩の皆様は私にとって「先生」です。皆様から受けた暖かい「教え」を今一緒にいる子供達に伝えられるよう努力せねばと、心新たにするこの頃です。

出会いに感謝

湯沢市
西馬音内小学校　滑 川　道 彦

仲野谷先生の文章を拝読させていただき、先生が現在まで取り組んでこられたことについて改めて知ることができました。今から20数年前初めて「ことばの教室」を知りました。そこで3年間、仲野谷先生には公私ともにお世話になりました。私は学級担任として頑張っていくことを望んでいたものですから、最初は少しがっかりしましたが、指導している先生方の前向きの姿に刺激を受け、自分なりに一生懸命取り組むことができました。仲野谷先生は一人にノート数冊のカルテを作っておられましたが、私は書くことが苦手で簡単に書く程度しかできませんでした。どちら

かというと、様々な子供達と接するためにと放課後の部活を持たせて下さいましたので、そちらのほうに力が入っていたように思います。ご配慮有り難うございました。

言語指導に関しては何もできない私ですが本会のご発展を祈りながら、これからもサポーターとして協力させて頂ければ幸いです。

「治りますかと聞かれて・・・」

能代市　山田　芳男

能代市立浄城第二小学校に「ことばの教室」が開設されたのは昭和42年4月のことでした。通級児は脳性マヒ、ダウン症、難聴、口蓋破裂の子で、どれも治療の困難な子です。しかも、どの母親からも、きまって「この子治りますか」と聞かれます。母親の子を思う気持ちが痛いほど伝わってまいります。相談を受ける自分としても胸を締め付けられる思いがします。

しかし、「治りますよ。」とはどうしても言えません。かといって、「治りません」と言えば、親に深い失望感を与えてしまいます。ですからこれも言えません。「治るかどうかりません」と言えば、去年1年間仙台で何を研修してきたか。と言われかねません。さあー、誠に困りました。

スマートに格好よく指導助言を与えたいのですが、それができません。しどろもどろの頼りない相談になりました。親の話を懸命に聴いてやることで精一杯でした。とにかく、母親の悩みを聞くことに一生懸命でした。こんな相談では、明日から誰も相談には来てくれないだろうな、と思うと気持ちが滅入り、不安感と孤独感にさいなまされました。ところが案に相違して母親は毎週教室を訪れてくれるのです。喜んで来てくれているようにすらみえます。嬉しくて、その途端、胸のつかえやわだかまりが消え、とても気持ちが楽になりました。　こんな頼りない相談でも、母親は喜んで来てくれます。何故か不思議な感じでした。当時は相談にきてくれるその理由がわかりませんでした。

後年になって「聴くことに集中する(傾聴)。」「相手の気持ちをありのまま受け入れ、(受容)その心に触れる(共感)。」「説得や助言は謹む。」「理屈や説教、説得で人の行動は変わらない」等、カウンセラーの心得を学んで、はじめて、当時の母親の気持ちや相談の続いたわけがわかったのでした。知らず知らずの間に母親の気持ちを楽にさせていたのかもしれません。

☆　事務局からのご連絡

① 前にもご連絡しましたが、11月中に県難聴、言語障害教育研究会30周年記念行事が秋田市において開催される予定です。ＯＢ会の会員皆様の参加を期待いたしております。なお詳細については後程連絡があると思います。

② 今回の会報は、能代市で行われた親子合宿研修会の様子を記録いたしました。次の会報第4号では、聴言研30周年記念行事の様子を記録したいと思っています。原稿依頼などありましたら、宜しくご協力お願いいたします。

③ 会費納入どうもありがとうございました。
　もし、会費未納の方がいらっしゃいましたら、ご迷惑をお掛けして誠に申し訳ありませんが 、納入して下さいますようお願いいたします。
ⅰ会費　2、000円　　ⅱ 納入期限　10月 30日
ⅲ同封の振り込み用紙にてお願いします
ⅳ 事務局 能代市立渟城第二小学校通級指導教室　担当 高橋かすみ
　　講座番号 ０２２６０－２－７６４４５
　　講座名 秋田県聴覚、言語障害教育研究会ＯＢ会
◇なお不明なことがありましたら 渟城第二小学校教諭高橋かすみへご連絡下さい（☎ ０１８５－５２－０４６８）

④ その他
ご意見、ご要望がありましたら、ご遠慮なく事務局の方へご連絡下さい。

【編集後記】

① 秋晴れの爽やかな日が続いております。皆様お元気でご活躍のことと思います。この度はお忙しいところ宿泊研のコメント、並びに ご寄稿をいただき有り難うございます。中には懐かしい私信なども頂戴いたし感激致しております。どうもありがとうございました。

② 会報第4号は12月上旬ごろ発行したいと思っています。

《 文責　　山田 》

とんぼ

二科会会員
宮腰[illegible]